



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第二四二号）

小寒 しょうかん

一月五日

初日記

新年おめでとうございます。

一年の大きな節目である一月一日。年が改まるとなぜおめでたいのか、それは歳神さまがやってきて新たな歳を授けて下さるから。お年玉ももともとは歳神さまが授けてくれる新しい玉（魂）のことをいいました。昔は数え年といつて、正月が来ると皆が一斉に歳を取ったのです。歳神さまは、クリスマスに贈物を配るサンタさんを思わせるところもあり、洋の東西を問わず、語られてきたのは興味深いことです。

その歳神さまが来る方向を恵方えほうといい、初詣には恵方にある神社に参る恵方参りの習慣もあります。恵方というと、今ではすっかり二月三日の節分に恵方を向いて、巻寿司を食べるイベントが定着してきましたが、旧暦の昔は、立春の頃が正月にあたりますから、年の節目には恵方を意識することを大事にしてきたのでしょう。

新たな年、新たな目標を立てたいものです。

私は、毎日のなにかしらの気づきを手帳に記すことを始めました。拙著で恐縮ですが、『伊勢開運手帳』の週間スケジュール欄に、「朝日が庭先に射し込む」、「北風の音が鳴る」、「裸木の枝先に星が宿る」など、短い文章を記しているのです。

なぜなら、『伊勢開運手帳』を書いている際、日本には現在、公の暦として使われている太陽暦、旧暦といわれる太陰太陽暦たいいんたいようれき、それに加えて地域の風土と関連した自然暦が私たちの暮らしに大きく関連していると感じたからです。伝統行事をはじめ、太陽や月の出、風、雨、草花、鳥、虫など自分の目で見えたものをあえて記して、自然暦を体感する一年にしたいと思います。

新日記三百六十五日の白

堀内 薫

この白いページに何が記されるのか、楽しみです。

文 千種清美

